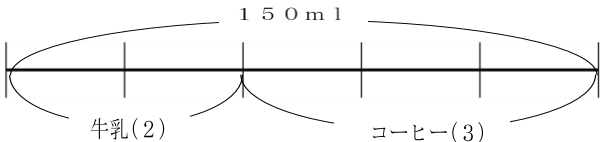


Ⅱ 本時の学習

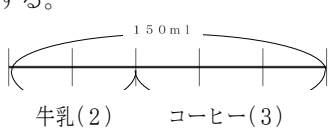
＜本時で身に付けさせたい資質・能力と手立て＞

線分図や比の性質などを用いて説明する活動を通して、全体の量からある大きさの比に分ける方法について考察し、結論を導くことができる。

手立て・・・線分図を配付しそこから導き出した考えをタブレットで写真を撮り、解答共有や電子黒板を使用し全体で共有し合う。

活動や発問・評価	時	ノート・ワークシート・ICT活用
1 既習事項を振り返る。 T：「比」について学習する中でどんなことを勉強してきたか。 S：等しい比がある。 S：比の値を出した。 S：線分図を使うと求めやすい問題があった。 2 本時の問題をとらえる。 コーヒー牛乳を150ml作ろうと思います。牛乳とコーヒーの量を2：3の割合で混ぜるとき、牛乳は何ml必要ですか。 T：前回の問題とは何が違うか。 S：前回は片方の量が分かっていたけど今回は両方ともわからない。 S：全体の量は分かっている。 3 本時のめあてを確認する。 全体の量が分かっているとき一方の量を求めるにはどうすればよいか。	10分	・本時の見通しにつなげられるように、既習事項を振り返り、あがったことを黒板に書いておく。 ・問題のイメージがもちやすいように、割合のちがうコーヒー牛乳の写真を電子黒板で見せる。 ・問題用紙をノートに貼り付ける。 ・問題提示がすぐにできるよう、板書せずテレビ画面に映し出す。 ・全体の量をもとにして一方の量を調べるということに気付けるように、ノートを振り返り前時までの問題との違いを見つけさせる。 ・本時の課題を明確に捉えることができるよう、なるべく児童の言葉で本時のめあてを導きノートに書かせる。
4 課題解決の見通しをもつ T：どんな考え方が使えるか。 S：昨日の線分図の方法が使えるかも。 S：その時にやった比の1つ分が出せるかもしれない。 S：等しい比の考え方も使えるかも。 T：どうして使えると思ったの？ S：前回も線分図や等しい比を使って片方を見付けられたから。 T：でも2：3は牛乳とコーヒーの比の事だね。 150mlはどう考えればいいのか。 S：2：3が合わさっているから5と考えればいい。 5 個別に課題追究する。 S：線分図を見ると150mlが5の比だから、比の1つ分は30mlになる。 S：牛乳の比の2と全体の比の5の等しい比で考えれば2：5=X：150で考えられるかも。	10分	・見通しと多様な考えがもてるようにするために、思考の基になる線分図を使った考え方や等しい比などの方法を振り返らせる。 ・＜線分図の例＞  ・自分の考えがもてるよう、見通しの中で出たことを振り返らせたり、ノートを見返したりするよう支援する。 ・線分図を使って説明しやすくするために、タブレット(ロイロノート)に考えをまとめさせる。 ・線分図や計算式に対して、どのように考えたのか等の説明をノートに書き込むように指導する。 ・手が止まっている児童の考えの補助となるように、ロイロノートの資料箱に線分図のヒントテキストを入れておく。

6 自分の考えをペア・グループで説明しあう 7 全体で考えを共有する。 T：友達の考えを見たり聞いたりした中で、説明を聞いてみたい子、またはこの子の考え方は説明できるものはあるかな。 S：〇〇の考えを説明してほしい。 T：〇〇考えを説明してください。 T：他の人でもう一度説明できる人はいるかな。 T：つまりどういうこと。 T：どんな方法を使ったのかな。 T：今の考えをもう一度ペアで説明し合いなさい。 T：他に聞いてみたい考えはあるかな。 T：これらの考え方で共通しているところはあるかな。 S：答えがすべて60mlになっている。 S：全体の比の5を求めて使っている。 T：今回は全体の比を求めたね。 線分図や比の性質などを用いて、全体の量からある大きさの比に分ける方法について考察し、説明及び結論をノートやタブレットに書き込んでいる。 (思考・判断・表現) [観察・ロイロノート]	・自分の考えを伝えやすくするために、タブレットを見せながら説明するよう声をかける。 ・全体共有の場面において、他の考えから思考を深めたり、新たな考えを見つけたりできるようにノートに記入した考えを写真に撮り、ロイロノートの提出箱に提出させる。 1 5 分 ・友達の考えからヒントを得たり、新たな考えを探ったりできるように、ロイロノートの提出箱を解答共有にしておく。 ・考えが共有できるように、指名した児童の考えを電子黒板に掲示する。 ・分からないでいる児童全員が理解できるように、それぞれの方法について話し合った後、提出箱から友達の考えを利用し小グループで説明する時間を設ける。
8 本時のまとめをする。 全体の比を求めてから、等しい比の性質を使ったり、比の1つ分の大きさを出したりすれば求めることができる。 9 適用問題または、他の考え方の検討。	1 0 分 ・まとめる前にめあてを確認することで、本時に考えたことのまとめができるようにする。 ・三つの考え方のうち出てこなかった方法は、教師から提示し、思考できるようにする。 ・本時の学習内容を再現しながら、解決できるような問題をロイロノートで配布する。

[既習事項] 等しい比 比の値 線分図	<板書> ㊦ 全体の量が分かっているとき一方の量を求めるにはどうすればよい 牛乳 コーヒー コーヒー牛乳 比 2 3 量 ? ? 150ml 見通し ・比の性質を利用する ・比の1つ分を求める ・線分図を利用する	考え方 ①等しい比の考え方 $2 : 5 = X : 150 \quad X = 60 \text{ ml}$ ②一つ分の比を求めている $150 \div 5 = 30$ $30 \times 2 = 60 \quad 60 \text{ ml}$ ③全体に対する割合 $150 \times \frac{2}{5} = 60 \quad 60 \text{ ml}$ ㊦ 全体の比を求めてから、等しい比の性質を使ったり、比の1つ分の大きさを出したりすれば求めることができる。	<大型提示装置> 問題を提示する。 コーヒー牛乳を150ml作ろうと思います。牛乳とコーヒーの量を2：3の割合で混ぜるとき、牛乳は何ml必要ですか。 活動1 割合の異なるコーヒー牛乳の写真を見せる。 活動2 提出箱に提出された解答を表示する。 活動3 ①等しい比の考え方を提示する。 ②1つ分の比や線分図を使った考え方を提示する。  ③全体に対する割合の考え方を提示する。
---	--	---	--

<授業後にイメージする指導の姿> コーヒー牛乳の全体の比をつかって線分図や比の性質などの考えを用いて、牛乳の量(一方の量)を求めるための説明及び結論をノートやタブレットに書き込めたり、友達に伝えたりできている。
